

豊田市 & 英国ダービーシャー
豊田市議会姉妹都市提携20周年
公式訪問等報告書



- ◆ 11月1日（木）TMUK（英国トヨタ自動車）公式訪問
ダービーシャー、トヨタ自動車、豊田市議会・豊田市の絆がより一層深まった。

【目 次】

訪問主旨・訪問先	1
英国ダービーシャー概略地図	2
訪問者	3
訪問日程	4
国際スポーツ大会開催後のレガシーに関する視察	5
ダービーシャー県内各所訪問	7
姉妹都市提携20周年記念式典・レセプション	8
姉妹都市提携3自治体議会公式訪問及び意見交換	9
TMUK 英国トヨタ自動車 公式訪問	17
訪問団の活動経過	19
あとがき	20



◆自然豊かなダービーシャーの風景

1 訪問主旨

1989年にトヨタ自動車株式会社の現地法人が、英国南ダービーシャー市に設立されたことを契機に、豊田市とダービーシャーとの交流が始まり、1998年に本市はダービーシャー県、ダービー特別市及び南ダービーシャー市と姉妹都市提携を締結した。

今回、豊田市公式訪問団（市長、議長、国際交流・商工・農業関係団体関係者で編成）とともに、豊田市議会の各会派代表等で編成する「市議会記念訪問団」が、より一層の相互理解と友好関係を深めることを目的に、市民の代表としてダービー3自治体を訪問し、姉妹都市提携20周年を祝い交流を行った。

さらに市議会記念訪問団として「3自治体議会への公式訪問」及び「2019年度に本市で開催される、ラグビーワールドカップ2019の大会成功に資する調査（過去の国際スポーツ大会開催後のレガシー等）」を行うことで、双方の地方議会としてのつながりを創出し、交流を深めていく礎とした。

2 訪問先

（1）ダービーシャー県

人口約79万人、面積2,551平方キロメートルで、英国中心部に位置し、県面積の3分の1を占めるピークディストリクト国立公園を始めとする英国内屈指の美しい自然に恵まれ、多くの観光客が訪れている。悠久の歴史を物語る古式ゆかしい町並みや点在する豪邸など、英国の魅力そのままだが凝縮されている。



（2）ダービー特別市

人口約25万人、面積78平方キロメートル、ロンドンから鉄道で約1時間30分、車で約2時間の平野部に位置し、県人口の約3分の1を有するダービーシャー県最大の都市。産業革命発祥の地であるダービーシャー県にあり、産業革命以来の製造業の伝統が社会基盤として受け継がれ、早くから工業都市として発展した。航空機エンジン製造のロールスロイス社、高級磁器で有名なロイヤルクラウンダービー社などの大企業の生産拠点が置かれている。



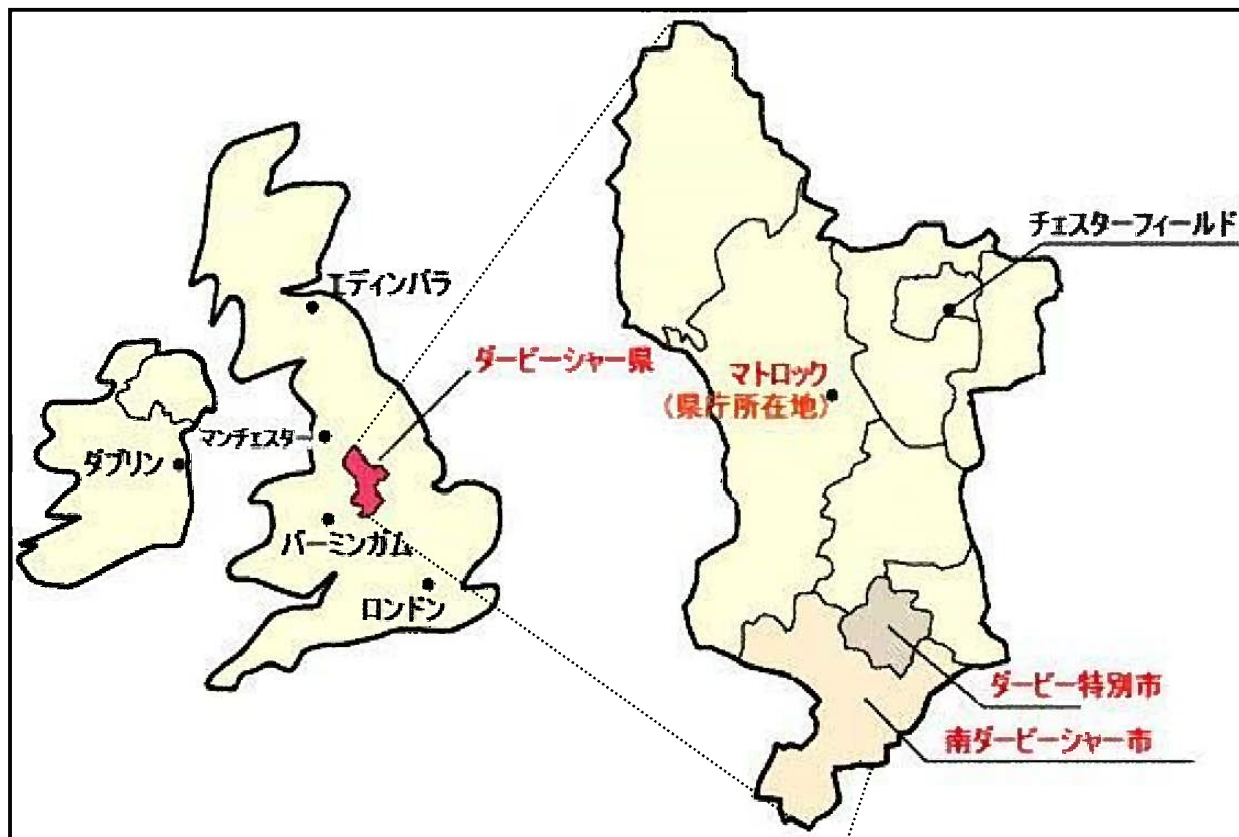
（3）南ダービーシャー市

人口約10万人、面積340平方キロメートル。平野と緩やかな丘陵が続く緑豊かな土地で、英国で最も大きい環境保護団体「ナショナルトラスト」に管理されており、美しい景観を誇る。市庁舎の所在地であるスワドリンコートは、18世紀末に始まった石炭、粘土の採掘で急速に発展した南ダービーシャー市最大のまちであり、商業・軽工業の中心地になっている。



※その他、ロンドン市内においてラグビーワールドカップ2019の大会成功に資する視察を実施。

【英国ダービーシャー概略地図】



3 訪問者



豊田市議会ダービーシャー姉妹都市提携 20 周年記念訪問団 Toyota City Council Derbyshire Sister City Partnership 20th Anniversary Commemoration Visit



団長 (だんちょう)
Chairman
三江弘海 (みえ ひろみ)
Hiromi Mie
市議会議員
City Councilor



幹事 (かんじ)
Secretary
小島政直 (こじま まさなお)
Masanao Kojima
市議会議員
City Councilor



団員 (だんいん)
Member
清水郁夫 (しみず いくお)
Ikuo Shimizu
市議会議員
City Councilor



団員 (だんいん)
Member
山野辺秋夫 (やまのべ あきお)
Akio Yamanobe
市議会議員
City Councilor



団員 (だんいん)
Member
山田主成 (やまだ しゅせい)
Shusei Yamada
市議会議員
City Councilor

随行職員 (ざいこうしょくいん)

Attendant

豊田市議会事務局 副主幹

Toyota City Council Secretariat Chief

上田 研 (うへだ けん)

Ken Ueda



9/23 (Mon) Wales × Georgia

9/28 (Sat) South Africa × Namibia

10/ 5 (Sat) Japan × Samoa

10/12 (Sat) New Zealand × Italy



4 訪問日程

	月 日	行 程	活動内容
1	10月28日(日)	中部国際空港 発 (仁川空港経由) ヒースロー空港 着 ロンドン市	《移動》
2	10月29日(月)	ロンドン市 ダービー特別市	◆国際スポーツ大会開催後のレガシーに関する視察 (ニューハム区役所・ オリンピックスタジアム) 《移動》
3	10月30日(火)	ダービーシャー県内 マトロック	◆トレイククリフ洞窟及びハドン ホール訪問 ◆記念式典・レセプション出席 (ダービーシャー県庁)
4	10月31日(水)	マトロック ダービー特別市	◆ダービーシャー県議会公式訪問・ 意見交換 (ダービーシャー県庁) ◆ダービー特別市議会公式訪問・ 意見交換 (ダービー特別市役所)
5	11月 1日(木)	南ダービーシャー市	◆南ダービーシャー市議会公式訪問・ 意見交換 (南ダービーシャー市役所) ◆TMUK(英国トヨタ自動車)公式 訪問
6	11月 2日(金)	ダービー特別市 ヒースロー空港 発	《移動》
7	11月 3日(土)	(仁川空港経由) 中部国際空港 着	

5 国際スポーツ大会開催後のレガシーに関する視察

- (1) 視察日時：平成30年10月29日（月）午前9時～正午
- (2) 視 察 先：ロンドンニューハム区役所・オリンピックスタジアム
- (3) 対 応 者：区役所職員交通・運輸プランナー ナランダ・ルビー氏始め3名
スタジアム職員 ジェームス・ウィルコックス氏
- (4) 視察内容：2012年ロンドン五輪開催後のレガシー推進策
オリンピックスタジアム現地視察

(5) 本市議会の現状と課題

平成27年度から豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会を継続設置し、試合会場となる豊田スタジアムを生かし、大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し調査・研究を実施。

大会成功に向けた更なる機運醸成策に加え、大会後のスタジアム活用策（レガシー）について対策が求められている。

(6) 視察概要

- ・ニューハム市議会とニューハム市役所は、ロンドンオリンピックを従前から計画されていたストラッドフォード地区の再開発とうまく結びつけて、効果的に大会を開催した。
- ・オリンピックの準備段階から、組織委員会、政府関係機関等と連携しながら、大会後のレガシーの姿を描いていた。
- ・オリンピック開催後のレガシーとして、大会に使用された施設が地域コミュニティまたは地区住民のための施設に生まれ変わり、大いに活用されている。加えて、魅力を感じた企業等が当該地区へ移転してきており、雇用の創出にもつながっている。
- ・オリンピックスタジアムは、オリンピック開催後、2015年にラグビーワールドカップ、2017年に世界陸上競技選手権大会が開催されたとともに、サッカークラブチームのホームグラウンドや地域コミュニティや学校のスポーツ施設として幅広く効果的に活用されている。

(7) 豊田市で活用すべきポイント

- ・ラグビーの認知度が低い人々に親しみを持ってもらい、話題を広げて盛り上げていく取組を積極的に行っていく。
- ・開催都市である豊田市が、文化面や産業面を始めとするまちの魅力をしっかり情報発信していく。
- ・大会の開催を契機に、観光の活性化や公的または民間の投資を市内へ呼び込むきっかけとする。

(8) 所 感

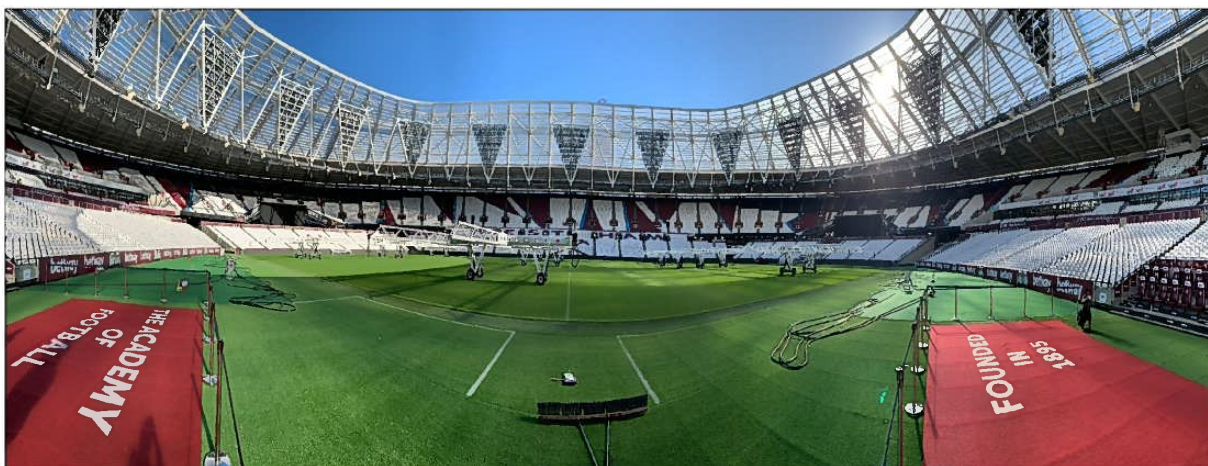
- ・豊田市駅から豊田スタジアムまでの区間の賑わい（イベントや出店など）を大会開催中に留まらず、大会後も継続できるような工夫が必要。
- ・全ての豊田市民が日本大会成功に関わる一員として行動する取組が必要。
- ・障がい者になるべく近くで試合を観戦できる環境づくりの検討が必要。
- ・自動ゲートなど、観客がスムーズにスタジアムを入退場できる環境づくりができるとうい。
- ・天然芝育成用のライトをより大きな機器にするべき。



◆ニューハム区役所職員による説明



◆オリンピックスタジアム職員による説明



◆オリンピックスタジアム内の様子

6 ダービーシャー県内各所訪問（豊田市公式訪問団同行）

【1】トレイククリフ

（1）訪問日時：平成30年10月30日（火）午前10時～正午

（2）訪問概要

- ・トレイククリフは、ダービーシャーキャッスルトン近くにある洞窟で、ブルージョンと呼ばれる鉱石が採掘できる唯一の洞窟。
- ・当日は洞窟内を見学しながら、洞窟の歴史やダービーシャーの人々との関わり、貴重な鉱石の採取と活用等について担当職員から説明を受けるとともに、ブルージョンの研磨加工を体験した。



◆洞窟内で説明を受ける様子



◆ブルージョンの研磨加工体験の様子

【2】ハドンホール

（1）訪問日時：平成30年10月30日（火）午後1時30分～午後4時

（2）訪問概要

- ・ダービーシャー県ベイクウェルにある英国のカントリーハウス*で、その起源は11世紀まで遡る。 ※イギリスの貴族の住居として建設された邸宅。
- ・現在、エドワード・マナー氏とその家族が所有しており、中世の邸宅の中でも最も原型を留めている家屋と言われている。
- ・当日は邸宅内を巡りながら、所有者から建物の歴史や特徴などの説明を受けた。



◆邸宅内の説明を受ける様子



◆ハドンホールの全景

7 姉妹都市提携20周年記念式典・レセプション（豊田市公式訪問団同行）

●開催日時：平成30年10月30日（火）午後6時～午後9時

●式典の流れ

○歓迎のことば（ダービーシャー県議会議員リーダー バリー・ルイス氏）

○オーケストラ演奏（ダービーシャー県・市ユースウインドバンド）

○あいさつ（これまでの両都市の友好関係について）

- ・元ダービーシャー県事務総長 ニック・ホジソン氏
- ・南ダービーシャー市議会議員リーダー マーティン・フォード氏
- ・豊田市長 太田稔彦
- ・豊田市議会議長 鈴木章

○姉妹都市提携20周年記念品の交換

○オーケストラ演奏（ダービーシャー県・市ユースウインドバンド）

○あいさつ（今後の両都市の友好関係について）

- ・ダービー特別市議会議員リーダー クリストファー・ポウルター氏
- ・在英国日本国大使館公使・総領事 辻阪高子氏

※式典終了後に、同会場にてレセプション開催



◆記念式典の様子。会場は歓迎ムード一色に染まり、終始和やかな雰囲気です式典が執り行われた。中でも、ダービーシャー3自治体から市議会訪問団各団員へ記念品が贈呈されるサプライズな場面もあり、ダービーシャーの豊田市議会に対する友好の気持ちが肌で感じられる貴重なひと時であった。

8 姉妹都市提携3自治体議会公式訪問及び意見交換

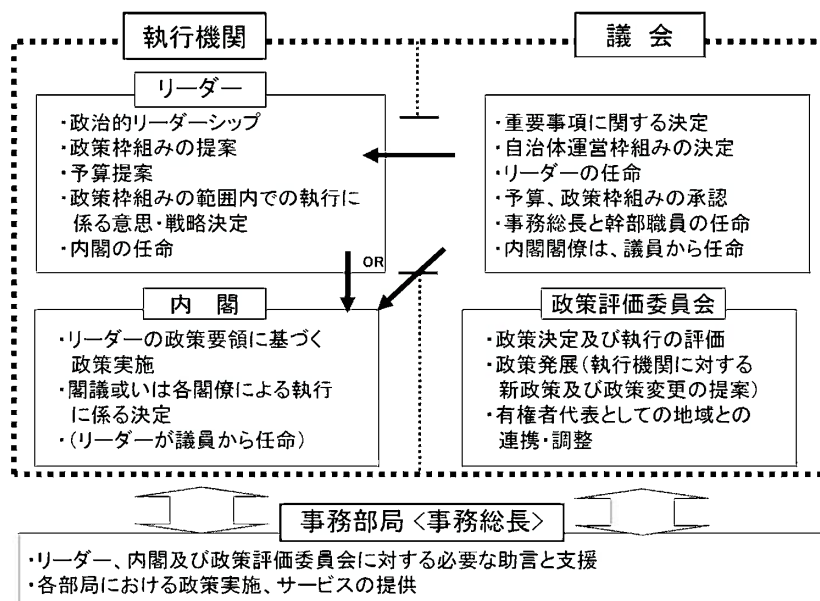
豊田市と英国ダービーシャーが姉妹都市提携を締結して20周年を迎えたこの機会に、豊田市議会として初めてダービーシャー県議会、ダービー特別市議会及び南ダービーシャー市議会を公式訪問し意見交換を行った。

訪問にあたり、事前にお互いの地方議会の概要（下記資料 参照）及び意見交換のテーマ「地方議会の役割とお互いの今後の交流のあり方」「国際スポーツイベントから得られたもの」「トヨタ自動車との関わりや想い」を共有し、意見交換を行った。

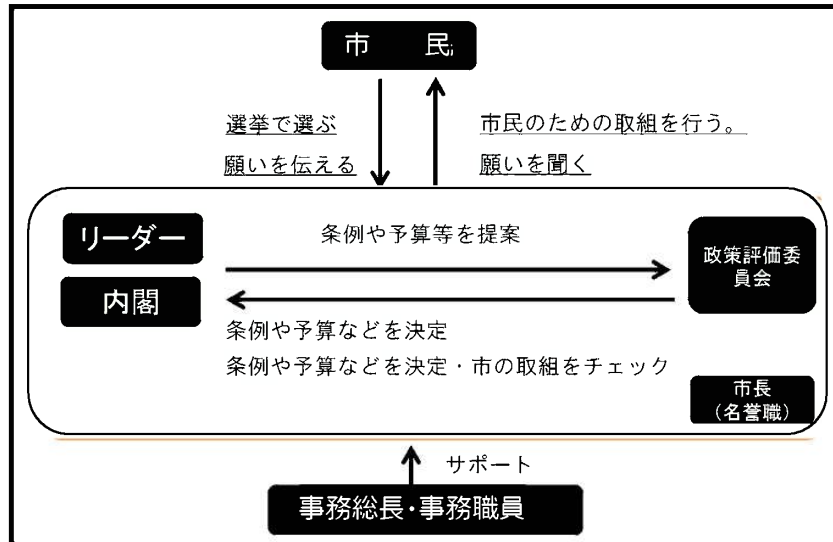
① 英国自治体のガバナンス【リーダーと内閣制】

- ・ 議会与党の代表を「リーダー」に選出
 - － リーダーの任期は4年
 - － リーダーが「内閣(Cabinet)」として執行部を組織
 - ・ 内閣の議長はリーダー
 - ・ 内閣構成員は10名以内
 - － Mayor(市長)やChairman(議長)は議会の投票で選ばれる名誉職
- ・ 内閣構成員である議員と一般の議員には明確な差
 - － 内閣構成員である議員は政策決定に責任を持つ
 - － 一般の議員は政策評価委員会のメンバーとなる
- ・ 執行機関と議会の構成員はともに選挙で選ばれたメンバー
- ・ 事務局局
 - － 事務総長(CEO, Chief Executive Officer)を中心に内閣を支え、事務を着実に執行する
 - － CEOと幹部職員は議会が選任している。

② 英国【リーダーと内閣制】



③ 英国【市民・議会・市長の関係】

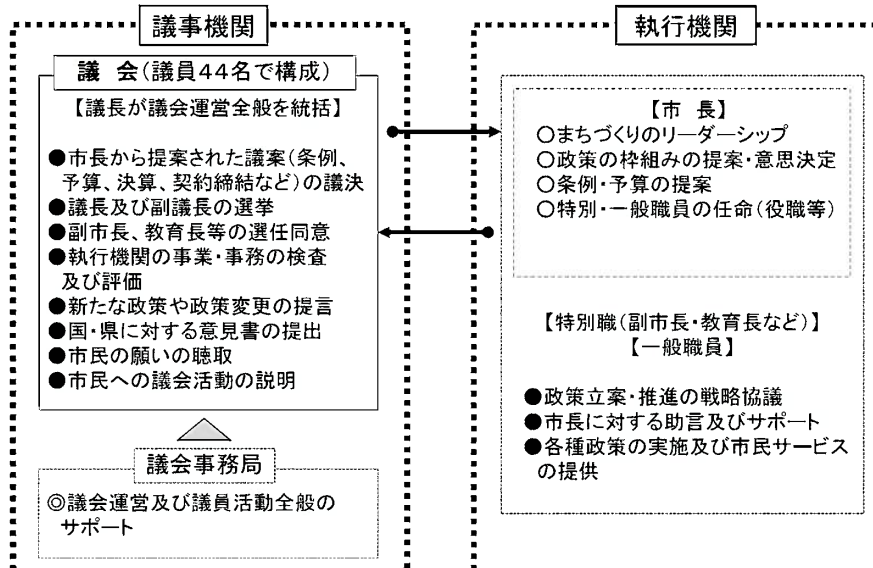


★英国の地方議会は、日本の議院内閣制に類似した仕組みとなっている。
⇒日本は市長と議会議員がそれぞれ直接選挙で選ばれる「二元代表制」で、これに対して英国は、与党議員の中から政策に携わるリーダーが選出され、リーダーの任命による内閣が組織される。

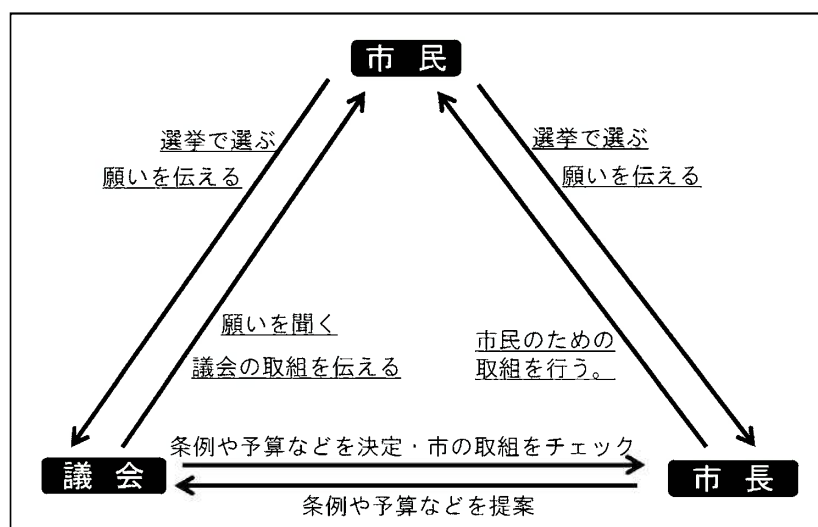
④ 豊田市のガバナンス【議会と市長】

- ・ 議員は直接選挙で選ばれる
任期は4年で報酬あり
「議事機関」として44名で議会が構成され、市長から提案された議案の賛否を決定し、まちづくりの状況をチェックする。
議会事務局が議会運営及び議員活動全般のサポートを行う。(25名)
- ・ 議長及び副議長は議会内の選挙により選ばれる
任期は残任期間で、議員とはそれぞれ報酬差額あり
- ・ 市長は直接選挙で選ばれる
任期は4年で報酬あり
市長をトップとし各部局の職員で構成する「執行機関」として、政策決定を行いながらまちづくりを行う。
メンバーは、副市長(2名)、教育長、事業管理者、各部長(18名)、
その他職員(3,320名)

⑤ 豊田市【議会と市長】



⑥ 豊田市【市民・議会・市長の関係】



【1】ダービーシャー県議会

- (1) 訪問日時：平成30年10月31日（水）午前10時～正午
- (2) 訪問先：ダービーシャー県議会議事堂内会議室
- (3) 対応者：県議会議員リーダー バリー・ルイス氏始め7名
- (4) 意見交換から得られた事項

《地方議会の役割とお互いの今後の交流のあり方》

- ・県議会議員は選挙時に公約（マニフェスト）を掲げて、当選後はその実現が最優先事項となる。
- ・県議会内には与野党が存在するが「ダービーシャー県の住民にとってベストな政策を推進する」という目指すべき方向は一致している。
- ・県議会としては経済、観光、産業、地域再生等に力を入れながら、若者が多く住む地域を目指していく。
また、ダービーシャーの全ての住民が健康で幸福を感じられる暮らしを築いていきたい。
- ・豊田市議会に支援できることがあれば、積極的に対応していきたい。その上で英国と豊田市、ダービーシャーと豊田市の関係において、様々な連携を図っていったら良い。

《国際スポーツイベントから得られたもの》

- ・自転車レースの開催を機に、ダービーシャーの美しい自然や様々な風景が世界レベルで知られるようになり、観光振興に寄与した。

《トヨタ自動車との関わりや想い》

- ・TMUKの存在は経済面だけに留まらず、地域コミュニティに根差した点や環境にやさしい視点など、多くの恩恵を与えてくれていて、感謝とともに非常に尊敬している。
- ・県議会として今後もTMUKとの関係を深めてサポートしていきたい。
またTMUKと協力して研修生制度を通じた技術者のスキルアップを検討していく。



◆県議会のみなさんとの意見交換の様子

【2】ダービー特別市議会

- (1) 訪問日時：平成30年10月31日（水）午後3時～午後5時
- (2) 訪問先：ダービー特別市役所内会議室
- (3) 対応者：市議会議員リーダー クリストファー・ポウルター氏始め6名
- (4) 意見交換から得られた事項

《地方議会の役割とお互いの今後の交流のあり方》

- ・特別市議会内に内閣を8名で構成しており、毎月閣議が開催される。
- ・閣僚は複数の分野を担当しており、委員会にも所属している。
- ・特別市議会の存在意義は住民の意思を実現していくことと捉えている。
- ・特別市議会として、文化・スポーツ・教育・観光等を通じた国際関係の発展を推進していきたい。

《国際スポーツイベントから得られたもの》

- ・ロンドンオリンピックを契機に関係する施設が改善された。また、国際レベルのスポーツ選手の育成に寄与した。
- ・RWC日本大会開催後のレガシーをどのように創出していくか、考えていくべき。

《トヨタ自動車との関わりや想い》

- ・TMUKとは官民のパートナーシップというカタチで、素晴らしい関係を築いている。
- ・ものづくりや労働慣習に留まらず、地域コミュニティにも関わってもらい、教育面においてもいい影響が及んでいる。



◆特別市議会のみなさんとの
意見交換の様子

◆市役所の総合受付



【3】南ダービーシャー市議会

- (1) 訪問日時：平成30年11月1日（木）午前10時～午前11時30分
- (2) 訪問先：南ダービーシャー市議会議事堂内議場
- (3) 対応者：市議会議員リーダー マーティン・フォード氏始め7名
- (4) 意見交換から得られた事項

《地方議会の役割とお互いの今後の交流のあり方》

- ・ダービーシャー県の下部組織として南ダービーシャー市があり、県と市の役割は異なる。
- ・県の主な役割は、教育、公衆衛生、道路、取引基準、消費者保護、廃棄物処理関係等。一方、市の役割はコミュニティ、税の徴収、住宅、許認可、スポーツ、生涯学習、清掃関係となっている。
- ・内閣に所属する議員がそれぞれの担当する分野の委員会に所属し、定期的に委員会を開催しながら財務管理を行い、また住民から申請のある許認可の審査等を行っている。

《国際スポーツイベントから得られたもの》

- ・オリンピック自体はロンドンで開催されたが、南ダービーシャー市も含め国レベルで「国民皆がオリンピックの一員」という機運が高められていた。
- ・オリンピック開催後のレガシーとして、多くの住民、特に若者が日常的にスポーツに親しむようになった。

《トヨタ自動車との関わりや想い》

- ・TMUKは長年に渡って地域コミュニティに関わってくれている。定期的な会合を設けて有用な情報を発信・共有するとともに、地域の課題は常に快く解決に向けて取り組んでくれている。
- ・学校への財政支援や地元のサッカークラブチームの運営サポート、エンジニアを目指す若者を対象とした研修制度を実施してくれている。



◆市議会の人々との意見交換の様子

【4】意見交換を通じたまとめ（訪問団コメント）

- ダービーシャーと豊田市、それぞれの議会の仕組みや状況、歴史を始め、様々な面で違いはあるが、市民の福祉の向上、地域経済の活性化、政治の安定を求める観点は同じだと考える。
今後も姉妹都市提携が発展的に継続し、より深い友好が実施されていくことを期待する。
- ダービーシャーと豊田市の姉妹都市提携は、トヨタ自動車の現地法人がダービーシャーに設立され、多くの豊田市民がダービーシャーで生活するようになり、交流が活発になり、そこで信頼関係が深められる中で、1998年に締結され、今年で20周年を迎えることができた。
このように長い間友好関係が続いているのは、トヨタ自動車の存在が大きいこととは言うまでもない。
今後、ダービーシャー、トヨタ自動車、豊田市の三角形の密接な関係、これこそを大事にしていかなければならないと確信している。
今後とも、発展的な関係を築いていきたい。

《参考》各都市の基本情報

項 目	豊田市	ダービーシャー県	ダービー特別市	南ダービーシャー市
人 口	425, 828人	791, 966人	256, 200人	102, 400人
世帯数	180, 306世帯	358, 550世帯	102, 272世帯	38, 992世帯
面 積	918. 32km ²	2, 551. 00km ²	78. 04km ²	340. 00km ²
主要産業	製造業(自動車) 観光	製造業(自動車) 観光	製造業(自動車) 航空	製造業(自動車) 建築
議員数	44人	64人	51人	36人
議会開催数	5回／年	6回／年	6回／年	5回／年

※平成30年10月調査



◆ダービーシャー県議会の
みなさんと共に



◆ダービー特別市議会の
みなさんと共に



◆南ダービーシャー市議会の
みなさんと共に

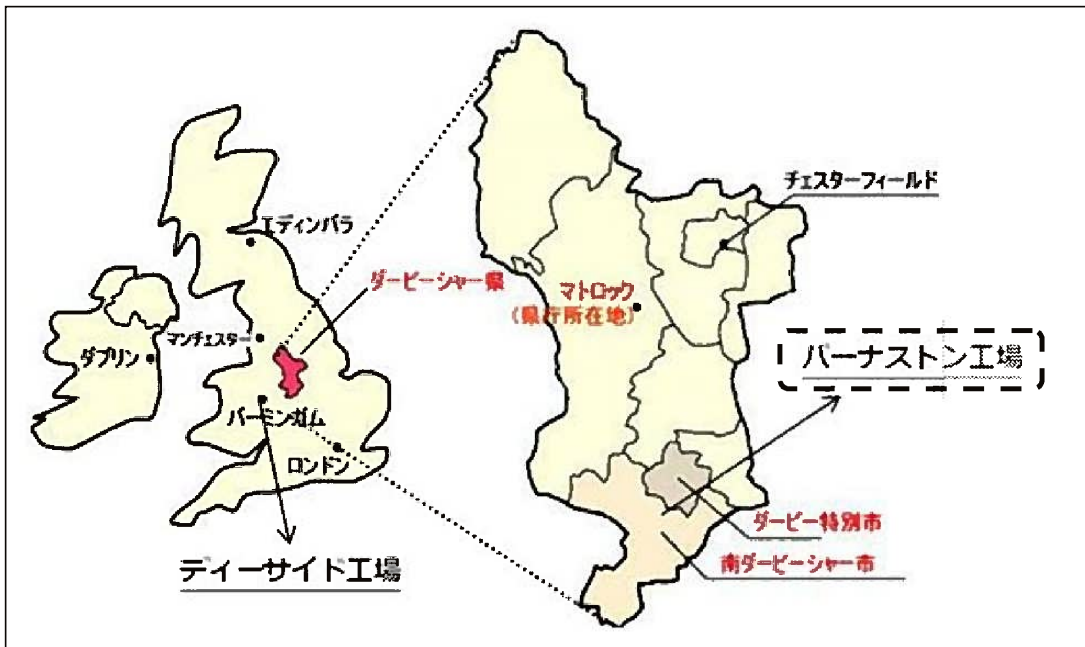
豊田市議会とダービーシャー各議会とのつながりを創出し、
交流を深めていく礎を築くことができた。

9 TMUK 英国トヨタ自動車 公式訪問 (豊田市公式訪問団同行)

- (1) 訪問日時：平成30年11月1日（木）午後0時15分～午後2時
(2) 対応者：会長 寺本繁氏
社長 マービン・クック氏
ディレクター 岡田和明氏
シニアアドバイザー 浅井健治氏
(3) 訪問概要

- ・姉妹都市提携のきっかけとなった日系企業で、トヨタ自動車の英国現地法人。正式名称は「Toyota Motor Manufacturing UK」（「TMUK」と略記・略称）。
- ・英国には車両製造を行うバーナストン工場（ダービーシャー）とエンジン製造を行うディーサイド工場（北ウェールズ）がある。

■英国における TMUK 各工場所在地



- ・当日は、始めに工場の概要及び特色について浅井氏から説明を受け、その後にマービン社長から改めてTMUKの説明を受けた。
- ・欧州におけるトヨタ自動車の販売状況は、1989年の英国現地法人の設立後、2007年の約126万台をピークに、その後のリーマンショックの影響による落ち込みを経験し、2017年時点で約100万台まで回復した。
- ・今回訪問したバーナストン工場は約2,600人、ディーサイド工場は約600人の従業員数となっている。
- ・TMUKは、地域に対し経済面や雇用面に関する貢献に留まらず、環境面への貢献や地域コミュニティとのきめ細かい連携、寄付等の社会貢献、技術者の育成支援、教育機関への援助など、地域に根差した幅広い取り組みを展開している。このことは、TMUK訪問前に3自治体議会へ公式訪問した折に、全ての議会においてTMUKを称賛・感謝するコメントを得ており、TMUKの貢献の大きさ・深さを改めて認識する場となった。



◆工場の概要説明の様子



◆会社の概要説明の様子



◆寺本会長の今後の思いを込めたあいさつの様子
会場にはダービーシャー3自治体のみなさんが駆けつけてくださった。
ダービーシャー、トヨタ自動車、豊田市議会・豊田市にとって今後も
変わらぬ絆を胸に刻む場となった。

10 訪問団の活動経過

月 日	内 容
平成 30 年 7 月 20 日	第 1 回打合せ ⇒訪問団の名称、役職、手配業者について協議
平成 30 年 7 月 30 日	第 2 回打合せ ⇒行程について検討
平成 30 年 8 月 10 日	第 3 回打合せ ⇒行程について検討
平成 30 年 8 月 24 日	第 4 回打合せ ⇒行程について検討
平成 30 年 9 月 10 日	第 5 回打合せ ⇒行程について検討
平成 30 年 9 月 20 日	第 6 回打合せ ⇒行程の詳細、携行品、個人名刺作成について確認
平成 30 年 9 月 22 日	とよた産業フェスタ ダービーシャーコーナー訪問
平成 30 年 10 月 5 日	第 7 回打合せ ⇒行程の詳細について確認
平成 30 年 10 月 12 日	第 8 回打合せ ⇒行程の詳細、3 自治体議会のとの意見交換テーマについて確認
平成 30 年 10 月 19 日	第 9 回打合せ ⇒式典等について所管課から説明
平成 30 年 10 月 26 日	第 10 回打合せ ⇒訪問直前の事前確認
平成 30 年 10 月 28 日 ～11 月 3 日	ダービーシャー等公式訪問（記念式典等出席）
平成 30 年 11 月 17 日	姉妹都市提携 20 周年記念式典・交流会出席（参合館）
平成 30 年 11 月 19 日	第 11 回打合せ ⇒訪問後の意見交換、報告書の内容協議
平成 30 年 12 月 21 日	第 12 回打合せ ⇒報告書の内容協議
平成 31 年 2 月 1 日	第 13 回打合せ ⇒報告書の最終確認

11 あとがき

豊田市と英国ダービーシャーは、1989年にトヨタ自動車南ダービーシャー市へ現地法人を設立したことを契機に交流が始まり、1998年にダービーシャー県、ダービー特別市及び南ダービーシャー市の3都市と姉妹都市提携を締結し、今年でちょうど20周年を迎えた。

この記念すべき姉妹都市提携20周年にあたり、豊田市議会として初めてダービーシャー県議会、ダービー特別市議会及び南ダービーシャー市議会を公式訪問し、地方議会の役割等をテーマとした意見交換を実施した。

短い滞在期間での公式訪問・意見交換であったが、お互いの地方議会としての存在意義や役割を再確認できたと同時に、議会同士のつながりを創出し交流を深めていく礎を築けたことは意義深いものとなった。

今回ダービーシャーを訪問して感じたことは、行く先々でお会いした全ての方々が私たち訪問団を暖かく迎えてくださったことであった。

これはひとえに、これまで20年にわたり豊田市とダービーシャーの交流を支えてこられた市民のみなさんや関係者の方々のご尽力の賜物であると強く感じた。

また、ダービーシャー滞在中に特に印象深かったことは、本報告書表紙の集合写真にあるとおり、英国トヨタ自動車を訪れた時に、公式訪問した先々でお会いしたダービーシャーのみなさんが駆けつけてくださり、三者が一堂に会してお互いの絆を改めて確認できたことであった。

このことは市議会が記念訪問団を結成し、初めてダービーシャーを公式訪問したことの意義が果たされた瞬間であったと捉えている。

今後もダービーシャー、トヨタ自動車及び豊田市が良好で密接な関係を続けながら、教育・文化・スポーツを始めとする様々な交流や、市民のみなさんが日頃からダービーシャーを感じることができる環境づくり等を推進し、三者がより一層発展していくことを切に願うところである。

豊田市議会ダービーシャー姉妹都市提携20周年記念訪問団
団 長 三 江 弘 海



Toyota-Derbyshire 20th Anniversary of the Twinning Links